



# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成29年度分）

団体名：八幡市

成果指標 ①	成果指標の目標数値	男山やってみよう会議参加者数 250人		成果指標の実績値 (30年4月1日時点)	355人
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)	前年度より増、目標数値より増となり、男山地域に関心を持つ人が増えてきていることが伺えるため	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)
成果指標 ②	成果指標の目標数値	ふれあい訪問ごみ収集 100件		成果指標の実績値 (30年4月1日時点)	125件
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)	前年度より増、目標数値より増となり、事業の定着が伺えるため	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)
成果指標 ②	成果指標の目標数値	ゾーン30整備費 30ha		成果指標の実績値 (30年4月1日時点)	42ha
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	歩行者の安全な通行の確保に寄与した	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)
本年度の事業実績が 成果指標の達成に与えた効果	京都府立会のもとUR都市機構、関西大学及び本市の三者による「男山地域まちづくり連携協定」を締結し、男山地域再生に取り組むなか、障害者生活支援事業やふれあい訪問ごみ収集の実施等により、男山地域の障がい者や高齢者が安心して過ごせる取り組みを行った。				
※未達成の場合も効果を記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方策についても記載すること。				
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	男山やってみよう会議を通じて、幅広い世代が集い、まちづくりの方向性や具体的な取組について議論し実行していくことで、男山地域再生に寄与する。			
	府と市町村等との連携に資する成果	京都府の立会いのもと、UR都市機構及び関西大学との三者で「男山地域まちづくり連携協定」を締結し、男山地域再生に向けた取り組みを進める。			
	住民の自治意識を高める成果	ふれあい訪問ごみ収集により、1人住まいの高齢者の孤独や不安を払拭し、自治意識を向上させた。			
	リーディング・モデル成果	ゾーン30の整備は、歩行者等の安全な通行を確保するリーディングモデルである。			
	広域的波及成果				
	行財政改革に資する成果				

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成29年度分）

団体名：八幡市

	その他の成果	
--	--------	--

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。